

飯田市立小中学校の今後のあり方に関する方針 ～第1次～（案）

今後のあり方に関する検討の視点

- ☆ 特色ある教育をどのように進めるか
- ☆ 学校施設の配置・枠組はどうあったらよいか

令和6年9月
飯田市教育委員会

方針策定の背景

これからの教育に求められること

- 学習者視点の「主体的、対話的で深い学び」に転換
- 「個別最適な学び(指導の個別化・学習の個性化)」「協働的な学び」の推進

飯田市の小中学校教育を取り巻く状況

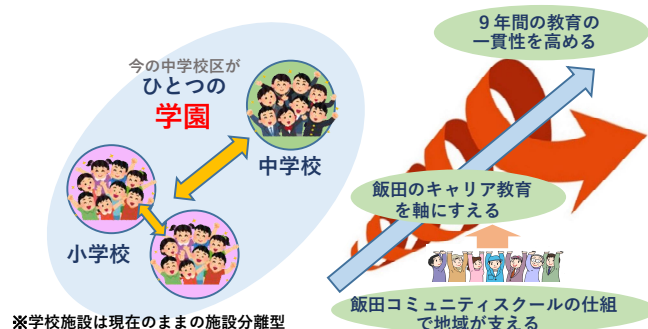
- △ 急速に進む児童生徒数の減少
(H5:11,743人⇒R5:7,574人⇒R11:6,437人)
- △ 大規模な改修・改築が必要な学校施設の増加
(R5築50年以上:13/28校⇒R11:25/28校)
- △ 地域の担い手や支え手の減少への危機
(地域人材育成の役割の重要性が増し、地域の特色を生かした魅力ある学校づくりが求められる)

飯田市の教育の特長

【教育ビジョン】

地育力による未来をひらく心豊かな人づくり

- ◎ 飯田のキャリア教育(生き方を学ぶ教育) H18～
- ◎ 小中連携・一貫教育 H23～
- ◎ 飯田コミュニティスクール H29～



小中一貫校としての「飯田の学園構想」

学園構想の目的

学園構想は、義務教育課程9年間の学びの「系統性と連続性」を高め、各学園で「教育目標」や「めざす児童生徒の姿」を共有して小中学校教職員が一体となり、飯田コミュニティスクールとして地域・家庭も子供たちの学びを支え、生き方教育でもある飯田のキャリア教育を軸にした教育活動を行うことで、**子供たちが、変化が激しく、先行きを見通しがたい時代を生き抜いていく力の基礎を、これまで以上にしっかりと、豊かに育んでいく**ことを目的とします

学園のあらまし

- * 中学校区の小中学校を**小中一貫教育を行う9つの「学園」**として規定します
飯田東学園・飯田西学園・緑ヶ丘学園・竜東学園・竜峽学園・旭ヶ丘学園・鼎学園・高陵学園・遠山郷学園
- * 現在の小中学校の施設を生かした「**施設分離型**」(小学校と中学校が距離的に離れている型)とし、教職員の会議や研修、小中合同授業や活動にはICTの効果的な活用も図って進めます
- * 小学校6年間、中学校3年間の教育課程のまま小中一貫教育を行う「**小中一貫型小学校・中学校**」とします

学園における学びの変化と効果

- ① **小中学生が一緒になって行う授業や特別活動(児童・生徒会活動、行事等)の機会が増えます**
⇒ 子供たちは多様性を認め合い、人とつながりあって共に生きていく力を身につけることができます
- ② **義務教育9年間の学びの系統性と連続性が高まります**
⇒ 子供たちは階段をより確実に上りながら資質・能力を高めることができます
- ③ **飯田のキャリア教育(地域の人や資源・課題と関わる実体験を通して生き方を学ぶ教育)を、9年間の発達段階に即して、順序立てて効果が上がるように行います**
⇒ 子供たちは自分自身で生き方を考え、他者と協働して切りひらく力の基礎を身につけることができます

学園における教育の特長

- ① **飯田のキャリア教育を軸にした小中一貫の特設教科を新設**
・ 生き方を学ぶ教育ともいえる「飯田のキャリア教育」を軸にした飯田独自の特設教科を設け、学園地域の資源や課題を教材に、地域の多様な人と関わる実体験を重視した学びを9年間の発達段階に即して行うことで、子供たちの課題に向かう力や人とつながる力を培います
- ② **ムツの学び**
・ 児童生徒の「なぜ?」「どうして?」という「私の問い」と、「～したい」「～になりたい」という「私の願い」を生み出し、子供たちが主体的に学習に向かう状態をつくり出します
- ③ **異年齢集団による学習や活動**
・ 合同授業や特別活動(児童・生徒会活動、行事等)で、小中の垣根を越えた異年齢での学びや活動の機会を充実させ、社会生活において要となる異年齢集団での適応力や協働意識を育みます

スケジュール

- <R6年度> 制度概要や、全市および各学園における協議推進体制等についての検討
- <R7年度> 4月から、教育委員会規則で定めた「学園」としての仕組みをスタート
(特設教科は、7年度に学校・地域・家庭が連携して学習内容を検討し、8年度から取組を開始)